

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 53人

② 算数 53人

#### 5 留意事項

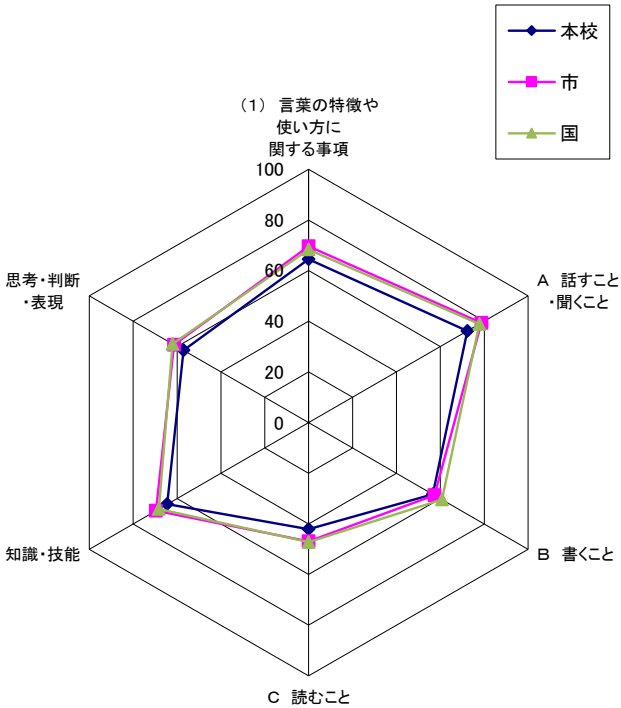
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                 | 本年度  |      |      |
|-----|--------------------|------|------|------|
|     |                    | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | 64.5 | 69.6 | 68.3 |
|     | (2) 情報の扱いに関する事項    |      |      |      |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項 |      |      |      |
|     | A 話すこと・聞くこと        | 72.3 | 78.7 | 77.8 |
|     | B 書くこと             | 56.6 | 57.3 | 60.7 |
|     | C 読むこと             | 42.1 | 46.9 | 47.2 |
| 観点  | 知識・技能              | 64.5 | 69.6 | 68.3 |
|     | 思考・判断・表現           | 57.1 | 61.4 | 62.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度      |      |      |      |



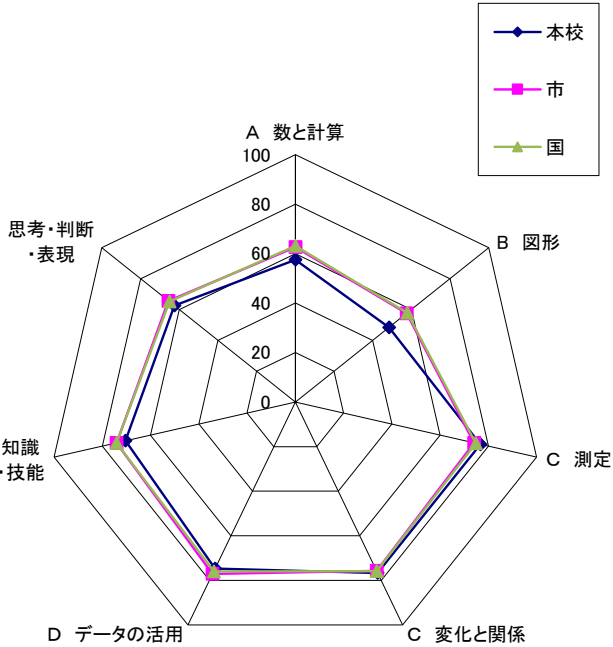
★指導の工夫と改善

| 分類・区分                  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や<br>使いに関する事項 | ●平均正答率は全国平均を3.8ポイント下回っている。<br>○文の一部分がくわしくしている言葉として適切なものを選択する設問の正答率は、全国平均を11.1ポイント上回り、良い傾向が見られる。<br>●思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で適切に使う設問の正答率は0.7ポイント下回り、漢字を文の中で正しく使う設問のうち、1つは全国平均を5.9ポイント上回っているが、残りの2つはそれぞれ6.6ポイントと26.1ポイント下回っている。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・読書を推進するとともに、言葉の意味調べなどを適宜行い、語彙を増やすようにする。<br>・自分が書いた文章を読み直し、よりよく書き直す活動を今後も継続し、習慣化できるようにする。書き直すための観点(漢字、言葉遣い、主語述語の対応、語順など)を明らかにすることで、よい文章に必要な要素を捉えられるようにする。<br>・漢字については、単純な漢字練習に終始することなく、文章の中で漢字を使いながら覚えることができるようにするなど、学習活動を工夫する。 |
| A 話すこと・聞くこと            | ●平均正答率は全国平均を5.5ポイント下回っている。<br>○目的や意図に応じ、資料を使って話す設問の正答率は、全国平均を2ポイント上回っている。<br>●スピーチにおいて、資料を用いた目的を理解する設問の正答率は全国平均を1.3ポイント下回っている。目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える設問の正答率は全国平均を17.1ポイント下回っている。                                       | ・身近な話題でスピーチしたり、目的をもってインタビューや話し合いをしたりする活動を行うことで、話すことに慣れさせ、話の内容を明確にできるようにする。<br>・目的や意図を明確にして話す力を伸ばすために、児童が相手意識をもって伝えたいと思える題材を設定する。<br>・話し手が何を伝えたいのかを捉えながら聞いたり、話題に沿って効果的に質問したりする力を伸ばすために、モデルを示すことで話し方や聞き方の工夫に気付けるようにする。                                        |
| B 書くこと                 | ●平均正答率は全国平均を4.1ポイント下回っている。<br>●自分の主張を伝えるための文章全体の構成を考える設問の正答率は全国平均を4.4ポイント下回っている。<br>●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫する設問の正答率は、全国平均を3.8ポイント下回っている。                                                                   | ・作文などを書く時、「誰に」「何のために」書くのかといった相手意識や目的意識をはっきりもって書けるような題材を設定する。<br>・各教科の学習で、自分の考えを書き、まとめる機会を設けることで、書くことに慣れさせ、表現力の向上を図る。<br>・調査報告文、手紙など、それぞれの特徴にあった書き方が理解できるよう学習活動の展開を工夫する。相手に分かりやすく伝えるための工夫(箇条書き、項立て、図表の活用など)についても指導し、場面に応じた書く力の向上を図る。                         |
| C 読むこと                 | ●平均正答率は全国平均を5.1ポイント下回っている。<br>○文章の内容や構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する設問の正答率が、全国平均を1.6ポイント上回っており、良い傾向が見られる。<br>●目的を意識し、中心となる語や文を見つけて要約する設問の正答率は、全国平均を5.2ポイント下回っている。<br>●目的に応じて、文章と図表を結び付けて必要な情報を捉える設問の正答率が、全国平均を11.8ポイント下回っている。           | ・物語の描写をもとに登場人物の考えを想像するなど、文章の意図を考える学習は多く行っているが、話し合いを通して他者の意見を深く掘り下げて考えられていない。友達の意見について考える学習を取り入れ、内容を深く理解できるようにする。<br>・疑問に思ったことを調べる活動を取り入れ、明確な目的をもち、主体的に文章を読むことができるようにする。<br>・読んで分かったことや感じたことなどを友達と交流する場を設定し、対話的な学びから自分の考えを深めることができるようにする。                    |

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況  
【算数】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と計算        | 57.5 | 62.6 | 63.1 |
|    | B 図形          | 48.4 | 57.5 | 57.9 |
|    | C 測定          | 76.7 | 74.1 | 74.8 |
|    | C 変化と関係       | 76.7 | 75.8 | 75.9 |
|    | D データの活用      | 74.7 | 77.1 | 76.0 |
| 観点 | 知識・技能         | 70.4 | 74.1 | 74.1 |
|    | 思考・判断・表現      | 62.5 | 65.6 | 65.1 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                        |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と計算   | ●平均正答率は全国平均を5.6ポイント下回っている。<br>○除法の結果を日常生活の場面に即して判断する設問では、全国平均を3.8ポイント上回った。<br>●商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の指揮に表し計算をする設問では、12.1ポイント下回っており課題が見られる。                                   | ・朝の学習や家庭学習において計算練習を位置づけたり、計算ドリルを繰り返し行ったりすることで、基礎的な計算力を高める学習活動を継続する。<br>・整数・小数・分数それぞれの文章問題に繰り返し取り組みさせることで、問われていることを文章から内容を正しく読み取り、立式する力を身に付けていく。                                                 |
| B 図形     | ●平均正答率は全国平均を9.6ポイント下回っている。<br>○直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選択する設問では、全国平均を8.6ポイント上回っている。<br>●直角三角形の面積を求める式と答えを書く設問では、全国平均を24.9ポイント下回っている。<br>●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と式を書く設問では、全国平均を12ポイント下回っている。 | ・図形の性質、面積の求め方について再度確認を行う。<br>・図形の面積を求める学習において、図形の性質を用いて立式できるように、公式を覚えるだけでなく、図形を作図したり、切ったり動かしたりする操作的な学習を取り入れたりすることで、図形の特徴をしっかりと捉えられるようにする。<br>・様々な図形の面積を求める問題を繰り返し解かせることで、公式を使って面積を求められるようにする。   |
| C 測定     | ○平均正答率は全国平均を1.9ポイント上回っている。<br>●二つの道のりを比べ、差の求め方を式や言葉で表す設問では、全国平均を5.9ポイント下回っている。<br>○条件に合う時刻を求める設問では、全国平均を3.3ポイント上回っている。<br>○直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選択する設問では、全国平均を8.6ポイント上回っている。                | ・はかりたい量は何か、比べようとする対象はどのようなものなのかを実感をもって理解できるよう、具体物や数直線などを活用する。また、「並べる」「合わせる」「重ねる」などの具体的な操作活動を取り入れ、場面を感覚的に捉えられるようにする。<br>・日常生活においても積極的に測定する機会をつくり、場面や目的及び身の回りのものの特徴に応じて、量の大きさの比べ方を見出すことができるようにする。 |
| C 変化と関係  | ●平均正答率は全国平均とほぼ同程度である。<br>○500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く設問では、全国平均を2ポイント上回っている。<br>●速さを求める式と答えの意味の理解を問う設問では、全国平均を8.4ポイント下回っている。<br>●速さと道のりを基に、時間を求める式に表す設問では、全国平均を7.7ポイント下回っている。           | ・伴って変わる2つの量について表にまとめ、表を横に見たり縦に見たり、斜めに見たりするなど様々な視点から数値の変化を調べる学習を取り入れる。<br>・問題文の読解に困難を抱えている児童については、場面の状況や、与えられた一つ一つの条件が意味する内容を、図や数直線等を用いて、視覚的に捉えられるようにする。また、自分で図や数直線に表させることで、自力解決するための思考力の向上を図る。  |
| D データの活用 | ●平均正答率は全国平均を1.3ポイント下回っている。<br>●アンケート調査の結果が表のどこに入るかを選択する設問では、全国平均を5.2ポイント下回っている。<br>○集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する設問では、全国平均を3.5ポイント上回っている。                                                     | ・データの特徴を捉えたいという児童にとって必然性のある学習課題を提示するようにし、児童が自分でデータを整理し、その特徴を読み取り、集めたデータをもとに問題に対する結論をまとめる学習を、各教科で行うようにする。<br>・身近なデータの活用例を日頃から取り上げたり、実際にデータを利用する機会を意図的に設けたりすることにより、データを活用する力を育てる。                 |

## 宇都宮市立岡本北小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は96.2%と、全国平均より1.7ポイント上回っており、ほとんどの児童が、ICT機器の活用が必要であると感じていることがわかる。本校の重点目標「一人1台端末を有効活用した学習の定着」に進んで取り組んできた成果と考えられる。今後もICT機器の有効な活用方法を模索しながら、授業の展開などを工夫し、学習方法の一つとして定着させていきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問に対しての肯定的回答の割合は98.1%と、ほとんどの児童が肯定的回答であり、全国平均より2.6ポイント上回っていた。また、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の質問に対しての肯定的回答は77.4%と、全国平均より7.1ポイント上回っており、「聞くこと」「話すこと」などのコミュニケーションへの前向きな状況がうかがえる。これは、地域学校園の研究テーマ「語彙力・コミュニケーション力」を高める取組へ取り組んだ成果であると考えられる。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対しての肯定的回答は84.9%と、全国平均より6.1ポイント上回っている。本校の重点目標「言語活動の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成」への取組の成果と考えられる。今後もより効果的な言語活動を模索し、協働的な態度の育成に継続して取り組みたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対しては、「30分～1時間」と回答した児童が最も多く、47.2%であった。県平均、全国平均では「1時間～2時間」の割合が最も多いことから、本校児童の家庭学習の時間はやや短めであることがわかる。本校の重点目標の一つに、「『宇都宮モデル』を踏まえた基本的な学習態度の徹底及び創意工夫した家庭学習の習慣化」があり、基礎的な学力向上のためにも、今後は児童が進んで家庭学習に取り組めるよう、具体的な学習内容や学習時間を示し、児童の頑張りを称賛することで、習慣化を図りたい。

## 宇都宮市立岡本北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                | 取組の具体的な内容                                                                                                                   | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                   |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主体的・対話的で深い学びを追求する言語活動の推進              | 児童が主体的に取り組める課題を設定し、単元や本時のねらい達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。                                                    | 友達の話や意見を聞いたり自分の考えを表現したりすることへの肯定的回答の割合が全国平均を上回った。話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができると回答した児童の割合も高く、友達とのコミュニケーションが児童の学びの充実感につながっている状況がうかがえた。       |
| 基本的な学習内容の定着を図る指導の充実と家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫 | 算数では、単元に応じて少人数学習や習熟度別学習、TT体制で授業を進めている。また、教員間で児童の情報を共有し、個々に応じた指導の工夫、改善を図っている。<br>「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた学習時間の目安や内容を提示している。 | 国語、算数ともに基本的な学習内容が十分に身につけているとは言えず、解答選択式の問題よりも、短答式、記述式の問題の正答率が低い。知識の定着、及びそれらを生かして課題解決する力や表現力に課題が見られる。<br>家庭学習に取り組む時間は、平日、土日ともに全国、県の平均よりも短めである。 |
| 1人1台端末を用いたICTを活用した授業                  | 月曜日と木曜日の朝の学習の時間にタブレット端末のAIDリルを活用し、学力向上を図っている。<br>タブレット端末についての研修を進め、授業での活用を図っている。                                            | ほとんどの児童がICT機器の活用が必要であると感じていた。タブレット端末活用への児童の意欲の高さを生かし、引き続きICT機器の有効な活用方法を模索しながら、指導の工夫を図るようになる。                                                 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題       | 重点的な取組              | 取組の具体的な内容                                                                                                                                    |
|--------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本的な学習内容の定着と活学力の向上 | 「分かる」授業の実践と家庭学習の習慣化 | 課題設定や授業の展開を工夫するとともに、学習のまとめや振り返りの場面で、学習したことやまとめ、考えたことを書かせたり児童同士で確認したりすることで、内容の理解を深められるようにする。<br>家庭学習の課題の内容を精選し、学年に応じた十分な家庭学習の時間と質を確保できるようにする。 |